

ソーシャル・キャピタルの意義と研究 法・稲葉陽二教授

稲葉教授は経済学に接して40年の間、経済学に大きな違和感を覚えた経験がある。現職に至る前、30年間のサラリーマン時代、最も経済成長を遂げていたアメリカで賃金が停滞し、所得格差が拡大している状況に驚き、1996年に『中流』が出版された。日本でも同じ事が起るはずだという危機感を持ってのことだ。



専門書に囲まれて日々研究に勤しむ稲葉教授。健康の秘訣は家族を愛すること

ところが、経済学者の多くは、賃金と労働時間とを掛け合わせた所得格差は人々の能力の差と個人の好みの違いを反映しているだけで、格差があるって当たり前だ。その考え方に疑問を持った教授は「文献を当たると、格差は大きな問題という理論を展開している分野があることを知りました。それが、日本語で社会関係資本と訳されるソーシャル・キャピタルであり、これをテーマに現在も研究を続けている。社会関係資本

と人々の間の信頼・互酬性の規範・ネットワーク(絆)を意味しており、「持ちつ持たれつ」「お互い様」「情けは人の為ならず」といったことを示す。これらの社会関係資本によって市場では評価しにくい価値が生み出されるというものだ。昨年の東日本大震災の被害は甚大であったが、「そこで発揮された地域コミュニティの力が社会関係資本の有用性を証明してくれました」。研究では、社会的格差や経済格差によって人間

関係が壊れ、孤立することで精神を病んだり病気に陥るなどの健康面から社会関係資本に携わっており、その中で社会疫学(公衆衛生の方法論)について共同研究を行っている。例えば、健診で心臓疾患の危険因子を見つけて、早期治療を促す方法があるが、それよりも健康の社会的要因を正すことで病気になる確率を減らしたほうが良いという発想だ。実際、人々に

将来の主観的健康観を聞く、社会参加により社会関係資本を維持している人は心の状態が良く、自分自身の評価も高い。その人たちは、高齢になっても健康であることが実証されている。経済論で銀行時代、エコノミストとして常に日本

信頼と規範、ネットワークは市場では計れない価値を生む 積極的な社会参加で健康を維持

技術退歩にも影響する 本来の専門は「日本経済

生産性の変化について調査していた。生産性の中には技術退歩があり、革新的な技術は確かにあったのに、90年代には数値的にマイナス、技術退歩という結果を招いた。それはなぜか。経営者のリーダーシップや職場での協力関係などが弱まり、ネットワークや信頼、規範が崩れたことも技術退歩に影響を与えたのではないかと考えられた。稲葉教授はこの日本経済論を担当。日本の経営の変化と得失を中心に、その経営の問題点や生産性の分析、経済成長などについて講義している。



ゼミでの勉学は企業理解に結び付く知識が身につく。ゼミ生は3~4年生で25人

稲葉 陽二(いなば ようじ) 昭和48年 日本経済政策学会・日本NPO学会理事、経済学博士、53年スタンフォード大学経営大学院 日本計画行政修士課程修了。経済協力開発機構 受賞。著書は『ソーシャル・キャピタル』(中央公論新社)など。日本開発銀行、日本政策投資銀行設備投資研究員。東京都出身、63歳。

「国というのは経済力だけで計れず、人間性が問題。知識に差はあっても、人格や人間性は変わりません。むしろ立派な人が多く、自分分は傲慢であったと、自らのホテルが爆破されたから『鱗』のような経験でスリランカ、真冬の最高気温がマイナス20何度と大いに役立っている。

宇宙の加速膨張と暗黒エネルギーの研究 文理・千葉剛教授

半径140億光年に及ぶ宇宙。それは不変ではなく加速しながら膨張している。この宇宙はどのような生まれ現在にいたか、そして終わりはあるのか。宇宙物理学の大テーマである。



千葉教授は、ノーベル賞の湯川秀樹(京大)の物理学の流れをくむ研究者

宇宙を支配する重力の正体説明が力ギとなる。これからの10~20年で「重力のナゾ」なぜ宇宙は加速膨張しているのか。「加速膨張は、銀河がお互いを遠ざける斥(せき)力が宇宙空間になんて説明出来る

観測と理論構築が不可欠 3種の重力源が宇宙を支配

ない。それを突き止めた「加速膨張の原動力」とされる「ダークエネルギー」が斥力を引き起す。その理論モデルは、「宇宙全体の重力構成比は、引力を持つ原子が約4割、ダークマター(粒子状物質と考え

物理学賞」を受けた。重力の源は質量かエネルギーだが、宇宙では3種類が想定されている。ひとつは太陽や地球などの天体や我々の体を構成する原子などの通常の物質。残る2つは、ダークマター(暗黒物質)と、

今年発見され、大ニュートンとなった。スイスにある原子核研究機関の巨大な加速器で陽子を正面衝突させ、この新粒子をはき出し、確認に成功した。「宇宙に充溢するヒッグス粒子(場)が宇宙

の運動に役割を果たしているかもしれない。宇宙の運動の説明には、ダークエネルギーとダークマターとダークエネルギーの正体の説明が欠かせない。「光学望遠鏡や電波望遠鏡などを使って、宇宙全体



和気あいのゼミで「学生の反応を見るのが一番の楽しみ」だ

研究者になる前は、手を使わず頭のなかだけで数式を使いこなす、車いすの物理学者・ホーキング博士(英)を「不思議に思っていた」そうだ。いま、自分も電車の中でアイディアが浮かぶと頭のなかで数式を操る。「それほど不思議ではない」。宇宙に魅かれたのは、高校時代に目にした科学雑誌やテレビで放映される学生が少ない」と感じれと変わらない。

星の観測では光が屈折する宇宙空間がある。その理論構築には欠かせない。超新星の爆発などによる検証が必要。研究は紙と鉛筆とコンピュータの世界だ。

直面する二つの暗黒重力の正体には、理論モデルの構築と観測による検証が必要。研究は紙と鉛筆とコンピュータの世界だ。

千葉 剛(ちば たけし) 平成3年京都大学理学部物理学科卒業。8年同大学院博士課程修了。博士(理学)。同

「ビッグバン」の本を貸しつけた。いまの物理学者は、それほどの先生が宇宙の始まりを研究している。来年は雑用から解放される研究休暇が半年あり、「友人との議論や研究を深めたい」。宇宙への気持ちは青年時代のそれと変わらない。

湯川記念財団 木村利栄理事

木村利栄理事

木村利栄理事